

2014年3月26日発行

中央大学人文科学研究所 編 中央大学出版部発行

本体価格4,900円（税別）

ISBN 978-4-8057-5345-3

序章	本書の意図と構成について	橋本 能
第一章	演劇ジャンル変更の問題 —『テュロス国とシドン国』の場合	伊藤 洋
第二章	デュルヴァルの劇作法 —1628年から1632年の演劇論争を越えて	皆吉 郷平
第三章	マウロの舞台装置を通して見る 1620年代後半から1630年代前半までの悲喜劇	浅谷 眞弓
第四章	透視図法背景とオペラの舞台装置家たち	橋本 能
第五章	劇中劇の世界	鈴木 美穂
第六章	十七世紀フランス演劇におけるスペイン物の系譜	富田 高嗣
第七章	十七世紀フランス喜劇と古典ラテン喜劇	榎本 恵子
第八章	フランス十七世紀女性劇作家たち	野池 恵子
第九章	教会と演劇	戸口 民也
第十章	古典主義喜劇の傑作と言われる『タルチュフ』が投げかける諸問題	鈴木 康司
あとがき		
主要人名索引		
作品名索引		